

富田林市埋蔵文化財調査報告36

平成15年度

富田林市内遺跡群発掘調査報告書

2004・3

富田林市教育委員会

はじめに

富田林市は、市内の中心を石川が流れ、緑豊かな丘陵と田園風景が調和した自然環境に恵まれた街です。石川によって形成された平野部は古くから人々の営みが行われてきたところで、市内でも最も多く遺跡の分布するところでもあります。

本書は、平成15年度に実施しました国庫補助事業の発掘調査概要報告書です。なかでも、錦織神社境内遺跡の調査成果では、神社創建当初に玉石が敷かれていたことを確認でき、大変貴重な成果となりました。

最後になりましたが、調査および本書の刊行にご協力いただきました関係者各位に厚く感謝いたします。

平成16年3月

富田林市教育委員会

教育長 堂山博也

例 言

1. 本書は、富田林市教育委員会が、平成15年度に、国庫補助金を受け実施した緊急発掘調査の概要報告書である。
2. 調査は、富田林市教育委員会文化財課、今西淳・藤田徹也を担当者とし、平成15年4月1日に着手し、平成16年3月31日に終了した。
3. 本書の執筆は、各遺跡の担当者があたった。各文末に記している。本書の編集は藤田徹也が行った。
4. 本書で使用した方位と標高は、すべて磁北と東京湾標準潮位で表示した。
5. 調査の実施と本書の作成にあたっては、下記の諸氏に協力を得た。記して感謝の意を表します。(敬称略 五十音順)

栗田薫、尾張友子、北野耕平、楠木理恵、田寄麻美、瀬戸直子、前野美智子

本文目次

はじめに

例言

1. 錦織神社境内遺跡	1
2. 喜志遺跡	9
3. 錦織南遺跡	11

挿図目次

第1図 錦織神社境内遺跡位置図	1
第2図 第1トレンチ北側石列出土平面・立面図	1
第3図 トレンチ配置図	2
第4図 第2トレンチ北壁断面	4
第5図 第3トレンチ北壁断面	4
第6図 第5トレンチ（春日社）断面図（北から）	5
第7図 第4トレンチ（天神社）平面・断面図	6
第8図 第6トレンチ北壁断面	7
第9図 天神社礎石 検出状況	8
第10図 喜志遺跡調査区位置図	9
第11図 喜志遺跡遺構平面図	10
第12図 錦織南遺跡調査区位置図	11
第13図 錦織南遺跡遺構平面図	12

図版目次

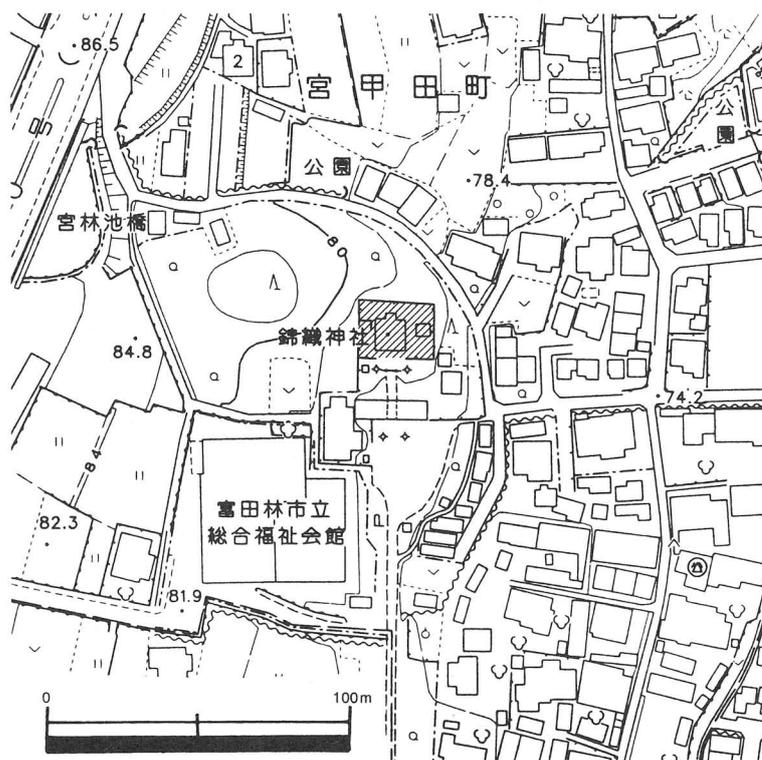
図版1（上） 錦織神社境内遺跡 第1トレンチ石列	
図版1（下） 錦織神社境内遺跡 第2トレンチ北壁断面	
図版2（上） 錦織神社境内遺跡 東側玉石・礎石検出状況	
図版2（下） 錦織神社境内遺跡 天神社西側（上層）瓦出土状況	
図版3（上） 錦織神社境内遺跡 天神社内トレンチ完掘状況	
図版3（下） 錦織神社境内遺跡 天神社付近礎石検出状況	
図版4（上） 喜志遺跡全景（南から）	
図版4（下） 喜志遺跡 土壇2（北から）	
図版5（上） 錦織南遺跡全景（西から）	
図版5（下） 錦織南遺跡全景（東から）	

1. 錦織神社境内遺跡

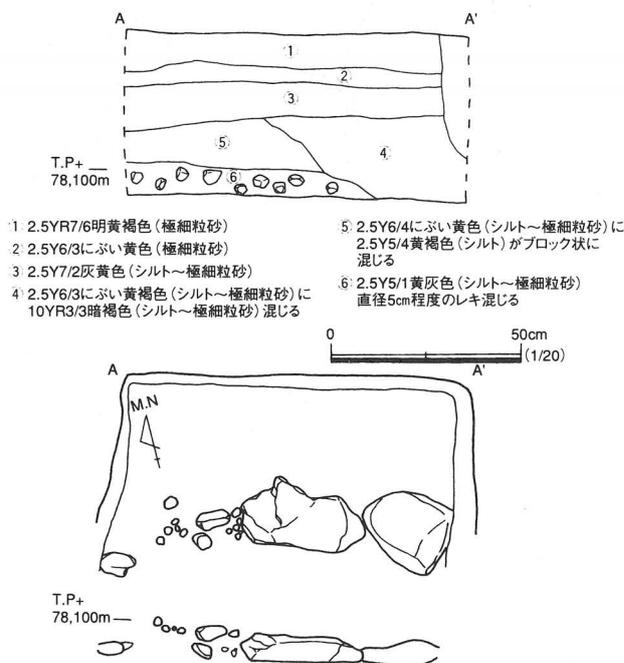
錦織神社は、石川左岸の中位段丘上に位置する。周辺には甲田遺跡・甲田南遺跡・川西古墳などが点在する。錦織神社は、正平18年（1363）の創建と伝えられており、現在本殿および両摂社は、重要文化財に指定されている。本調査は、神社の修理工事および隣接する両摂社の解体修理工事に伴い、修理工事と併行して行った。以下、トレンチごとに調査の概要を述べる。

第1トレンチ

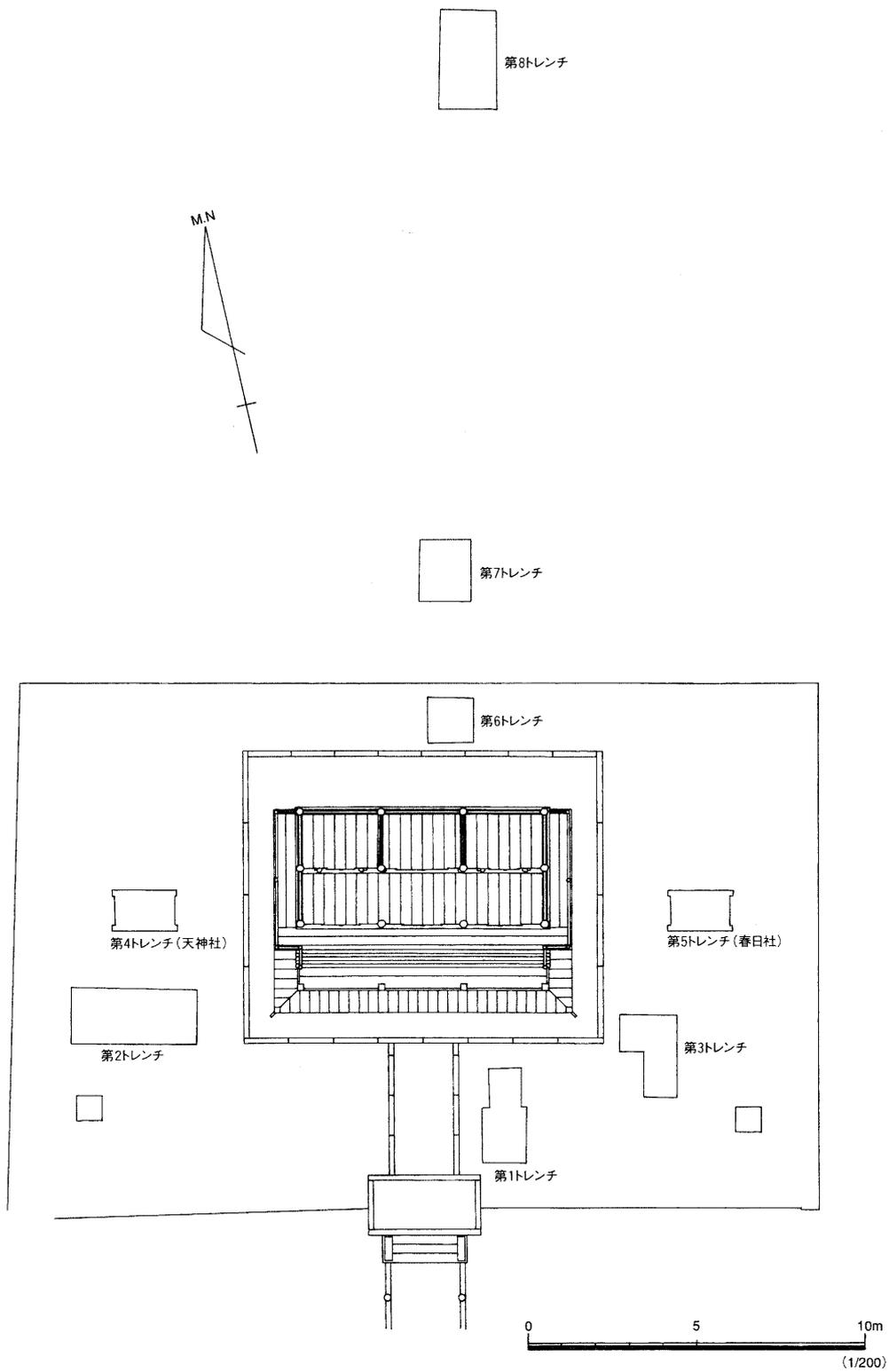
本殿の南側、中門の東側に設けた。南側の大半は、昭和初期の土塀工事による掘削や配水管工事のため攪乱を受けていた。この掘削ラインは、調査区北側の断面②層から落ち込んでおり、①、②層は現代に形成された層であると考えられる。③～⑤層までは、棧瓦を含む近世瓦が出土している。⑥層は小石が多く含んでおり、後述するように⑥層上面が神社創建当初の面であったと考えられる。また、トレンチの北側、すなわち本殿に近い箇所において、意図的に並べたとと思われる石を検出した。検出した石は2点と拳大以下の小さい石が数点であった。この面は、⑥層に該当する面であり、創建当初の境内領域を示すものの可能性が高い。この面が創建当初の盛土最上面であると考え、最低2回は近世段階において盛土を積み上げたものと思われる。また、④層が⑥層を切る形になっているのは、⑥層上面が水平を保たれなかったのか、掘削されたのかの確認はできないが、このような状況は、第3トレンチでも確認できる。



第1図 錦織神社境内遺跡位置図



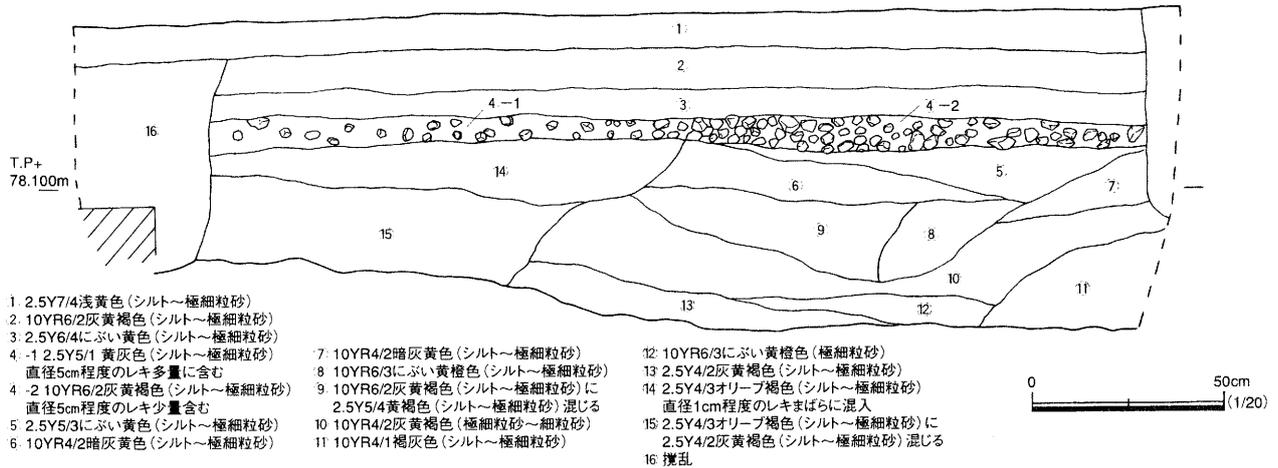
第2図 第1トレンチ北側石列出土平面・立面図



第3図 トレンチ配置図

第2トレンチ

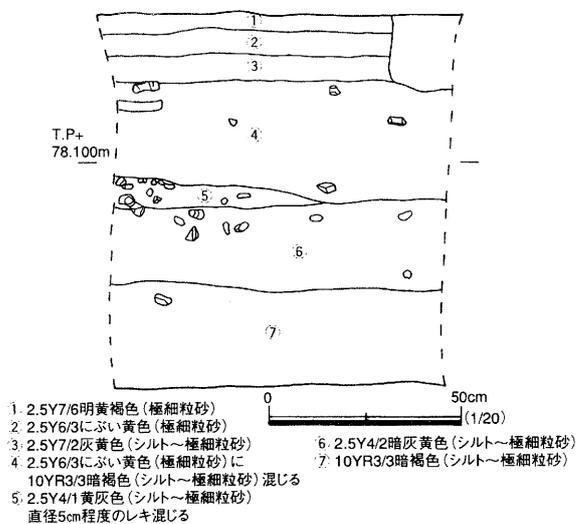
本殿西側、摂社天神社の南側に位置する。トレンチの大部分は避雷針の設置などにより攪乱を受けていた。①層は表土である。②、③層からは、近世瓦が多数出土した。④層は、第1トレンチよりも多量の小石が敷き詰められていた。④層下は、④層までの水平した堆積状況とは異なり、やや乱雑な状況を示す。また、ブロックで混入している土も多く見られ、④層以下が境内盛土、④層が初期段階の盛土上面であったと想定できる。さて、トレンチ北壁断面のほぼ中央部分において④層下より落ち込むラインが確認できる。この層から近世瓦が出土していることから、初期段階の盛土を改修した状況であると考えられる。④層の石の状況も概ねこれに該当するように、それまで比較的密に敷き詰められた状況が西側はややまばらになる。④層を東西で区別した場合、この状況が境内盛土の拡張や盛り直しなどの修復事業であるのかの判断はできないが、いずれにしても、この上層に他トレンチで確認できる近世段階の盛土積み上げが行われていることから、積み上げに先行した工事であったと考えられる。



第4図 第2トレンチ北壁断面

第3トレンチ

本殿東側、摂社春日社の南に位置する。①～④層までの状況は、第1トレンチと同様の傾向を示す。第1トレンチの④層と同様に、⑤層の創建当初盛土上面を切り込む形になる。また、第2トレンチと比較すると石の入り方が少ないのも特徴であり、むしろ第2トレンチの④-2層に類似し、近世時の改修時のものとも考えられる。



第5図 第3トレンチ北壁断面

第4トレンチ（天神社）

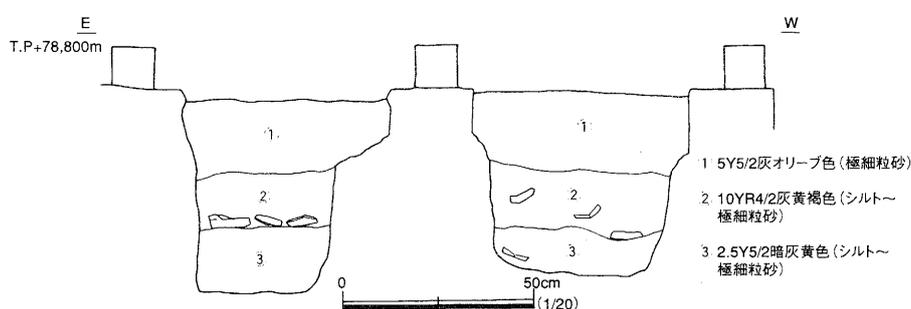
本殿西側に位置する天神社内に設置した。のべ石の下にある基礎は、昭和10年の解体修理の際にコンクリートで作られている。調査は、建物基底の木枠の内側を行った。摂社中央部に木枠があるため、東側と西側に分けて掘削を行った。

摂社内側に木枠とほぼ同レベルに砂が敷かれていた。この砂は、昭和10年の解体修理終了の際、敷かれたものと考えられる。砂を除去した後、各トレンチにも対応する①層、②層を確認した。木枠やその下に敷かれているモルタルの基礎は、表土上に敷かれており、少なくとも昭和10年の段階では、近世瓦を出土する①層よりも上面に建物が建っていたと考えられる。西側では、③層から瓦溜まりを検出した。そこから約10cm下げた所から④層にあたる石が敷かれた層が確認できた。東側の③層からは、瓦などの出土はほとんどみられず、東側と西側での状況が異なる。これは、第2トレンチで確認された近世段階での改修に伴うものと考えられ、つまり現在の天神社の位置は近世段階の境内西側改修工事以降であると考えられる。

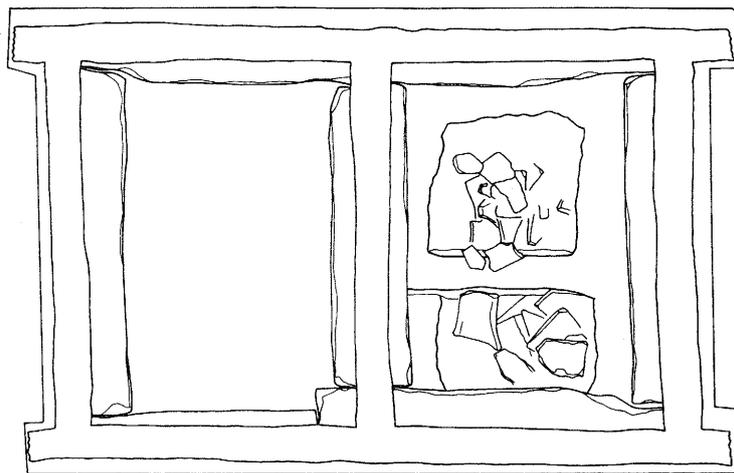
東側の④層では石敷きの様子が確認できたほか、摂社の創建当時の礎石と考えられる平らな石を、現状の摂社木枠とやや位置のズレた箇所から検出した。

第5トレンチ（春日社）

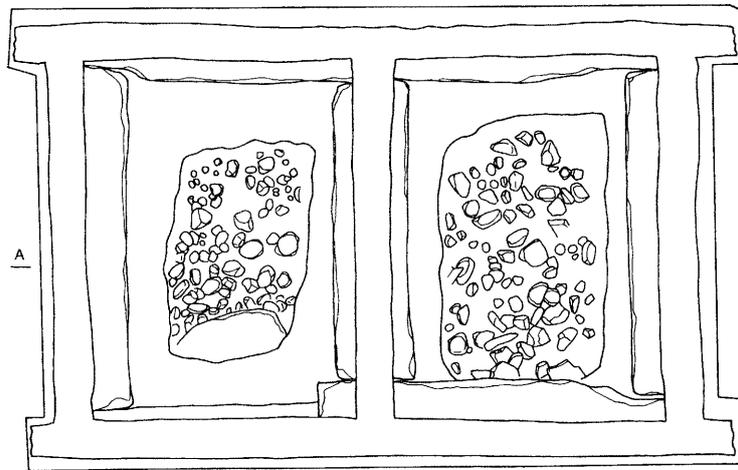
春日社においても、摂社中央に木枠があり、便宜西側と東側に分けて掘削を行った。天神社と同様に摂社内側には砂が敷かれており、木枠の下にはモルタルの基礎が打ち込まれていた。砂を除去した後、表土、①層、②層、③層までは前述した各トレンチと同様の状況を示すが、④層にあたる層からは石敷きは確認できなかった。これは、第3トレンチにおいて述べた④層を切る層があるためであり、すなわち春日社の場合、幾度となく改修された土台の上に建てられているのである。出土遺物は、まばらながらも各層から出土しているがいずれも碎片が多く、改修時期を特定できるような材料はない。



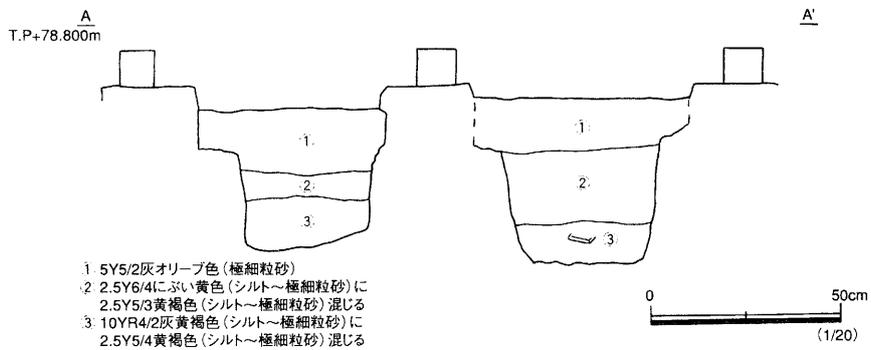
第6図 第5トレンチ（春日社）断面図（北から）



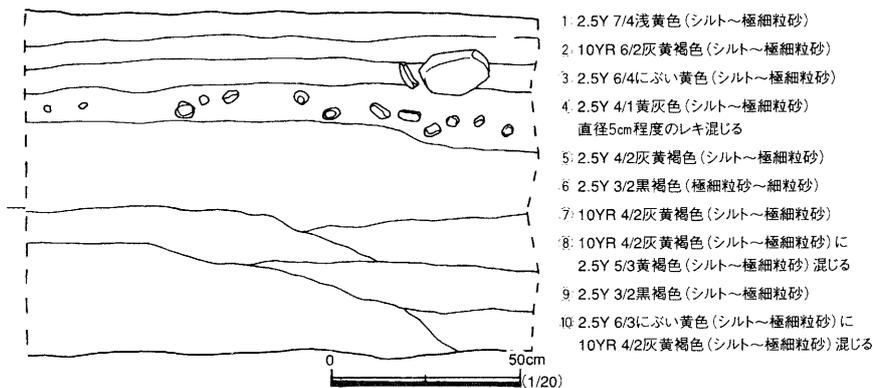
3層検出状況



4層検出状況



第7図 第4トレンチ(天神社)平面・断面図



第8図 第6トレンチ北壁断面

第6トレンチ

本殿の北側に設置した。トレンチ内の大部分は排水溝や避雷針によって大きく破壊を受けている。このトレンチでも断面において④層に小石を多く含む層が状況が確認できた。しかし、第2トレンチと比較するとその状況はまばらである。また、近世段階の盛土積み上げの状況がここでも

確認することができ、近世段階の改修が本殿周辺全域に及んでいたことが確認できる。

第7トレンチ・第8トレンチ

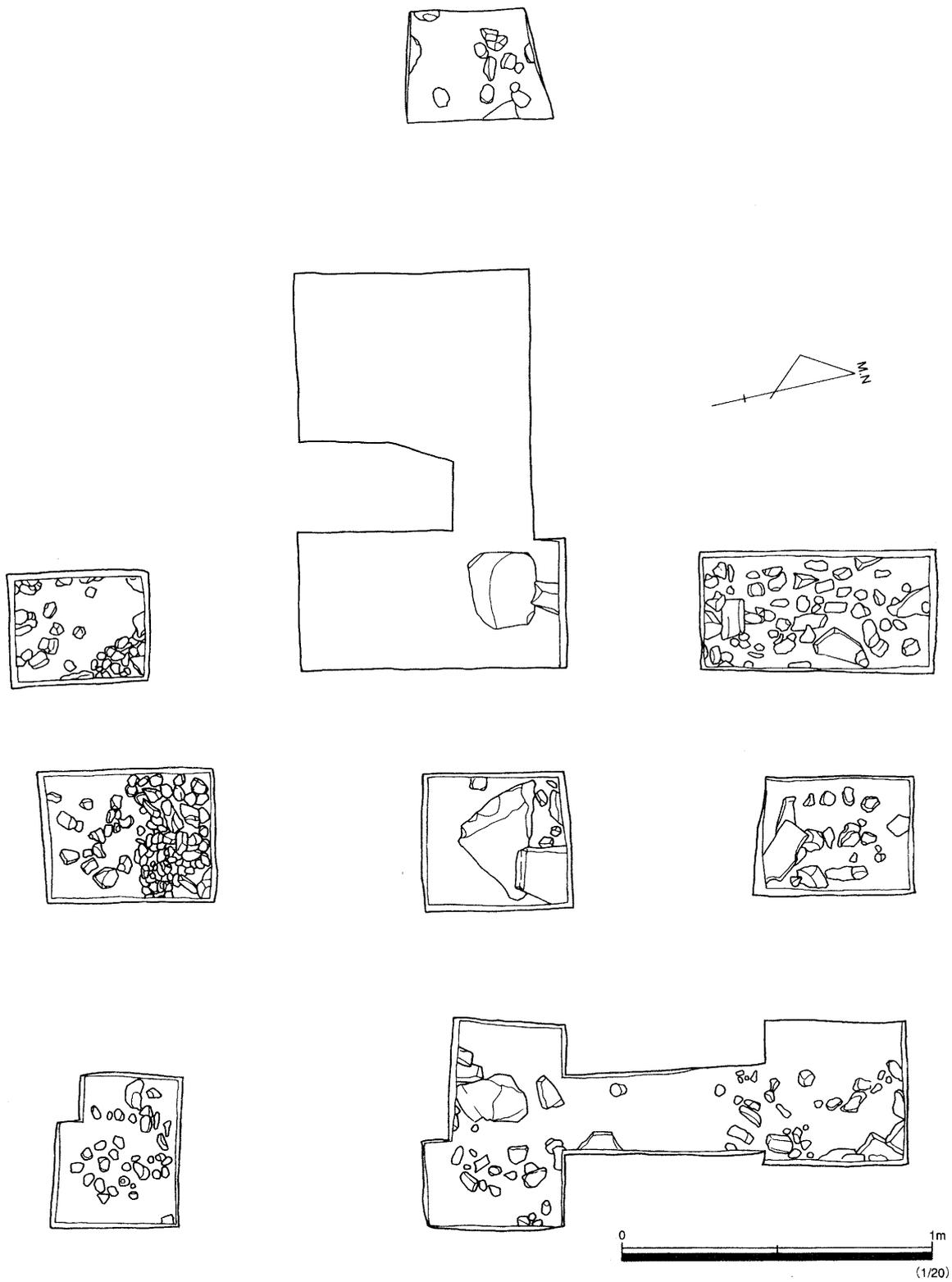
第7トレンチは現境内のすぐ北側、第8トレンチは錦織神社の領域内の最北部に設けた。いずれも約40cm掘削したところで地山を検出したが、遺構などの確認は出来なかった。第7トレンチの結果を考えると、現境内北側の範囲は、創建当初と変わらなかったことが想定できる。

まとめ

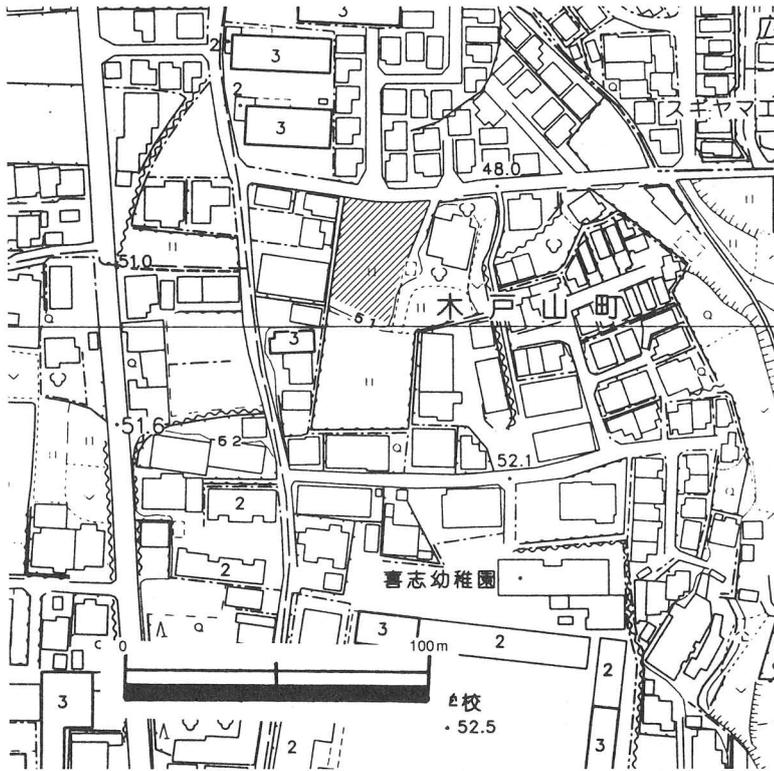
今次調査の各トレンチにおいて検出した小石を含む層が、創建当初の境内盛土面であった可能性が高く、本殿周辺は石敷きであったと考えられる。また、天神社内から検出した礎石は、現在の天神社の位置とはやや異なる位置での検出であった。そこで、天神社の幅を考慮に入れ確認のトレンチを設けたところ、東西方向の礎石を確認することが出来た。したがって創建当初の天神社は、現在よりも約半間分(約90cm程度)東に位置していたと考えられ、現在の位置への移動は第2トレンチ断面でみられた西側への改修工事に伴うものである可能性が高い。

また、本殿東側では、石の混入度合いが希薄であり、上層により切られている箇所も確認された。春日社内のトレンチからも礎石や石敷きの状況は確認できなかった。周辺の地形は、西から東へ傾斜する形をとり、境内西側は切り土、東側は盛土によって平坦面を形成していると思われる。こういった状況を踏まえると、東側は西側より崩れやすく、各トレンチで確認できる近世段階の改修以前から、数回盛土を改修した結果である可能性がある。

なお、最も本殿近くで検出された天神社の礎石の位置を考えると、天神社と本殿の位置が密接になり、本殿の屋根の下に天神社の屋根が位置するという状況になる。今次調査の境内すべてのトレンチで近世段階の盛土積み上げが確認されていることから、本殿が移動している可能性がある。いずれにしても、今次調査は狭小の範囲での知見であり、詳細は今後の調査に委ねたい。(藤田)



第9図 天神社礎石 検出状況



第10図 喜志遺跡調査区位置図

2. 喜志遺跡

喜志遺跡は富田林喜志町から木戸山町にかけての市内地域と、北側で隣接する羽曳野市の一部を範囲とし、弥生時代の遺構が顕著に確認されている。当遺跡は、市域を南北方向に貫く、石川中流域西岸の標高約50mの河岸段丘にあり、市内の北端に位置している。この石川は北から南方向に流れ、大和川に合流している。また、石川流域には甲田南遺跡があり喜志遺跡と同様に、弥生時代の遺構が多く検出されている

調査の成果

調査区の基本層序は、①層（7.5Y 5 / 1 灰色）、②層（7.5Y 7 / 1 灰白色）、③層（5 Y 7 / 3 浅黄色）、④層（10YR 6 / 1 褐灰色）、⑤層（2.5Y 6 / 3 にぶい黄橙色）、⑥層（10YR 4 / 2）であった。遺構としては、土壇10ヶ所、ピット6ヶ所、溝1条を検出した。以下、各遺構の概略を述べる。

調査区北端で検出した土壇1は、幅は約0.7m、長さ約0.6m以上を測る東西方向の長方形を呈した遺構である。深さは、約0.09mと浅く、底面は平坦である。埋土は10YR 4 / 2 灰黄褐色である。

また、遺構面の直上の⑥層目から鉄釘が出土している。この遺物は、土壇1から南へ0.3m位置で出土している。

調査区北側で検出した土壇2は、南北に長い不整形な楕円形である。幅は約1m、長さ約2.5mである。深さは約0.3mで、肩から緩やかに傾斜している。埋土は、10YR 3 / 2 黒褐色である。調査区やや中央北側で検出した土壇3は、南北約1.1m、東西約1.4m以上を測る。深さは、約0.2mで底面は2段落ちになっている。また、土師質土器の細片が多数出土している。埋土は、10YR 4 / 2 灰黄褐色である。

調査区中央よりやや南側で検出した溝1は、幅約4.6m、長さ約1.8m以上の東西方向の溝である。埋土は上層が10YR 3 / 2 黒褐色で、下層が10YR 2 / 2 黒褐色の2層に分けることができる。深さは、上層約0.2m、下層約0.2mを測り、肩部から緩やかに傾斜している。また、底面は平坦で西から東方向に緩やかに傾斜している。

ピット1～ピット3は、溝1の南側に位置する。直径約0.3mの、楕円形もしくは不整形を呈している。深さは、それぞれ約0.15mを測る。埋土は、10YR 4 / 2 灰黄褐色である。これらは南北方向に約1.2m間隔で1列に並んでいる。

まとめ

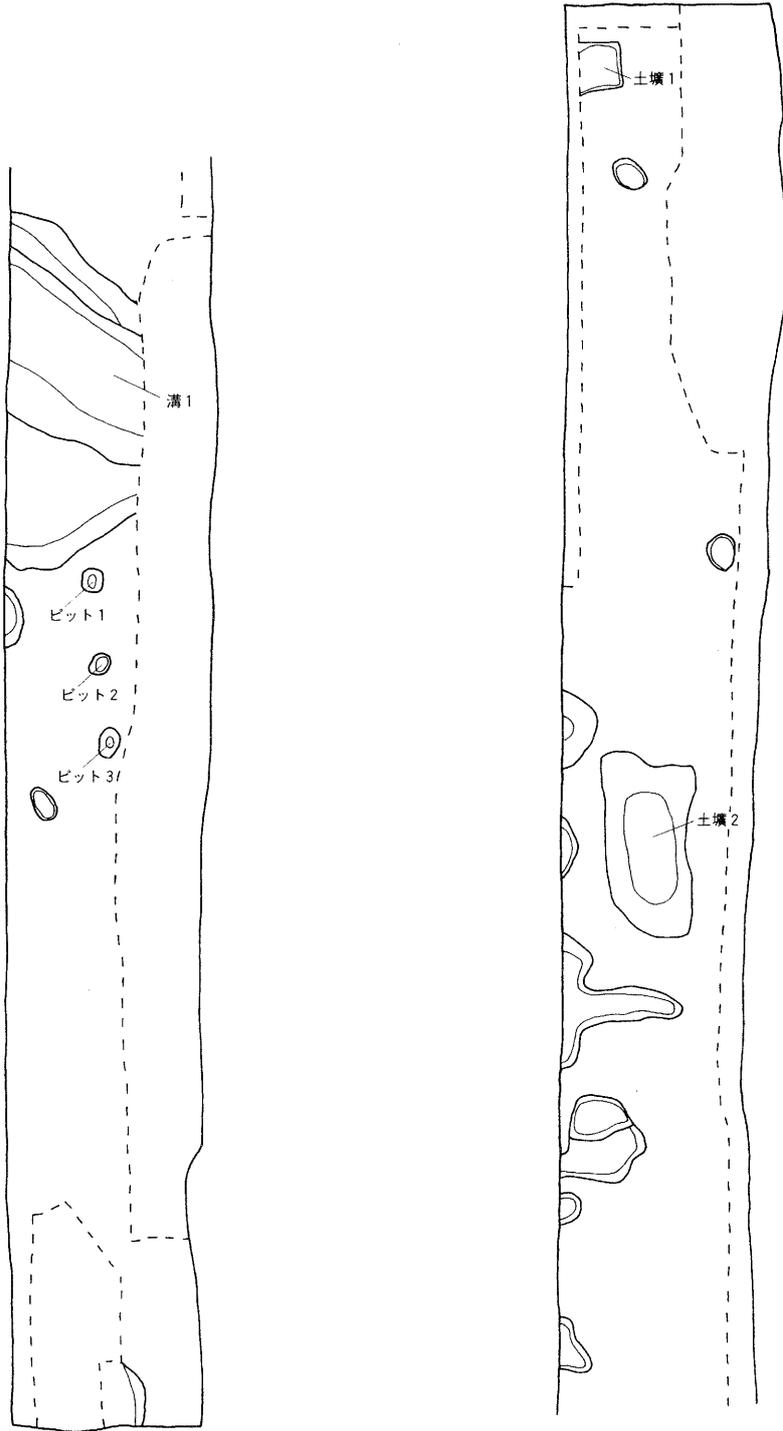
喜志遺跡は古くより石器が出土することで、早くから知られた遺跡の一つであり、市内北端の河岸段丘にある弥生時代の集落遺跡として周知されている。遺跡の範囲は、南北約700m、東西約500mである。北側は羽曳野市の一部を含み、東阪田遺跡と接し、南側は喜志小学校付近、西側は国道170号線付近、東側は石川西岸付近までである。

遺跡範囲の地形はおおむね二段の段丘面で形成され、遺跡の東側では石川に向かって地形が急峻に下がり、一段低い段丘面を呈している。今までの調査等では、遺構のおおくが上段の段丘面で確認されている。

今回の調査地は、喜志小学校の北側にあたり、上段面の東端部に位置し、調査区の東側から地形の傾斜が始まっている。また、調査地の道路を挟んだ北側では、古墳時代の中期と推定される、埋没古墳が検出されている。古墳の規模等は不明であるが、人物埴輪等が出土している。

今回の調査では、土壌、溝、ピットを検出した。ただ、古墳に関連する明確な遺構は検出されていない。また、遺物は土師質の細片と鉄釘が1本出土したが、細片のため時期の特定には至っていない。

今回の調査では、北側の埋没古墳との関連は希薄であることが判明したが、遺構全体の性格については、判然とせず今後の調査によって考察していきたい。(今西)

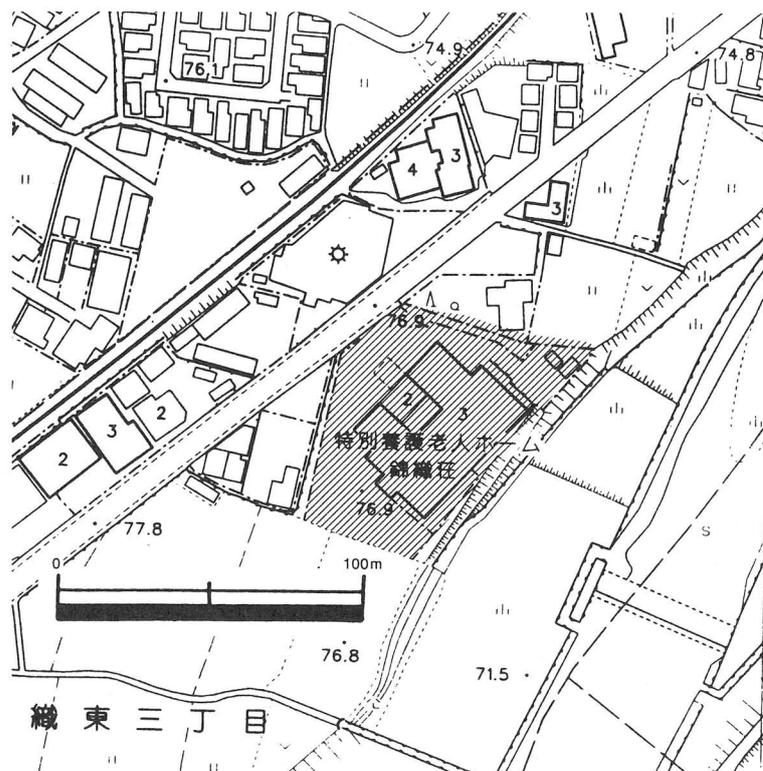


第11図 錦織南遺跡調査区位置図

3. 錦織南遺跡

錦織南遺跡は、市内の南部にあって、石川の西岸、近鉄線滝谷不動駅の南西に広がっている。その規模は、南北約630m、東西約470mに及び、過去の調査から縄文時代晩期から中世にかけての複合遺跡であることが判明している。

今回の調査では調査区1、調査区2を設定した。ただし、調査区2は攪乱のため調査を行っていない。また、調査区1も遺構上面まで攪乱が及んでおり、断面による層位の確認は出来なかった。以下は調査区1の調査成果を述べる。



第12図 錦織南遺跡調査区位置図

調査の成果

土壌3ヶ所、ピット16ヶ所、溝1条を検出した。

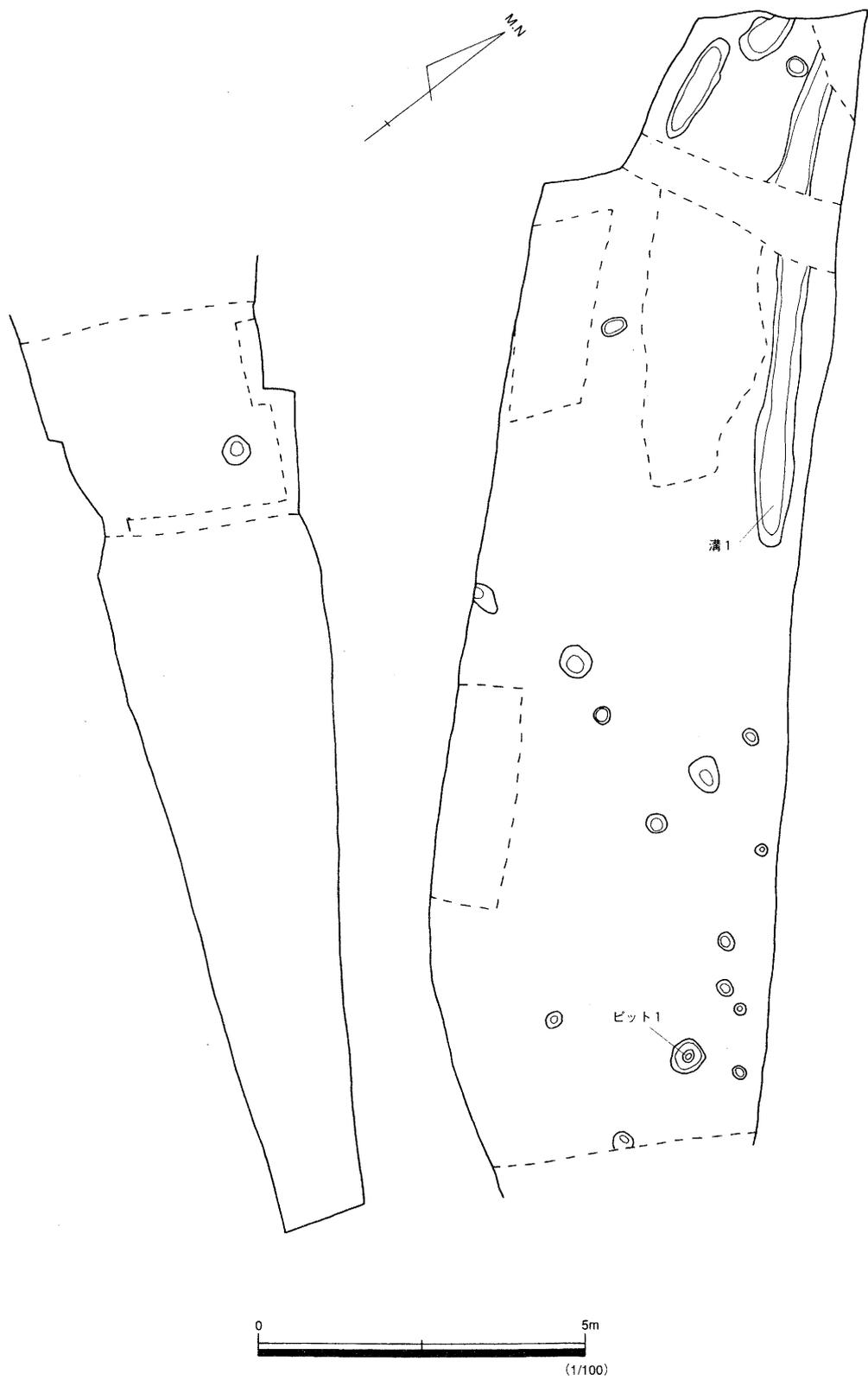
溝1は、調査区の西北隅に位置する。幅約0.5m、長さ約7m以上を測る東西方向の溝である。埋土は10YR4/2灰黄褐色である。深さは約0.1mほどで、底面は平坦である。

ピット1は、調査区のほぼ中央に位置する。直径約0.5m楕円形を呈している。このピットは中央部で二段落ちになっている。深さは約0.2mである。埋土は10YR4/2灰黄褐色である。

まとめ

今回の調査区は、錦織南遺跡の北東の隅にあたる。平成9年度に本市教育委員会が行った調査地の南側に隣接している。この調査では、奈良時代の中頃以降から平安時代にかけての遺構が検出され、整地層の下層には河道の存在も確認されている。

今回の調査の成果としては、土壌、ピット、溝を検出している。遺物は、極少量の土師器、須恵器、瓦器の微細が出土している。ただし、微細であるため、時期の特定には至っていない。このため、遺構全体の性格の把握が困難であるが、隣接して行われた調査から類推していきたいと思う。この調査と遺構面の標高がほぼ同じ高さである、遺構埋土もほぼ同様であり、またピットの規模等にも共通点が多く見受けられ、関連性を推測させられる。また、今回の調査ではピットの規則的な配列などは確認されていないが、遺構面の直上からは青磁片が1点ではあるが、出土している。今後の調査で、遺構の規模を判断していきたい。(今西)



第13図 錦織南遺跡遺構平面図

報告書抄録

ふりがな	へいせい15ねんど とんだばやししないいせきぐんはくつちようさほうこくしょ							
書名	平成15年度 富田林市内遺跡群発掘調査報告書							
副書名	富田林市埋蔵文化財調査報告							
巻次	36							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	今西淳 藤田徹也							
編集機関	富田林市教育委員会							
所在地	〒584-8511 大阪府富田林市常盤町1番1号 ☎0721-25-1000							
発行年月日	西暦 2004年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 〇'〇"	東経 〇'〇"	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
錦織神社 境内遺跡	富田林市 宮甲田	27214	41	34° 29' 31"	135° 35' 29"	2004.1.15 ~3.31	約30m ²	錦織神社 改修工事 に伴う
喜志遺跡	富田林市木戸 山町576	27214	1	34° 31' 20"	135° 36' 50"	2003.9.24 ~10.15	約55m ²	分譲住宅 建設に伴 う
錦織南遺跡	富田林市錦織 東三丁目4	27214	139	34° 28' 28"	135° 35' 15"	2003.10.14 ~10.31	100m ²	特別養護 老人ホー ム増築に 伴う
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
畑ヶ田南遺跡	集落	中世~近世	創建当初の石敷き 創建当初の摂社礎石		瓦	天神社の創建当初の 礎石を確認 創建当初敷かれて いた玉石を確認		
喜志遺跡	集落	弥生~中世	溝・土坑・ピット		土師器			
錦織南遺跡	集落	中世	溝・土坑・ピット		土師器・瓦器 ・須恵器			

版 图



図版1（上） 錦織神社境内遺跡 第1トレンチ石列



図版1（下） 錦織神社境内遺跡 第2トレンチ北壁断面



図版2（上） 錦織神社境内遺跡 東側玉石・礎石検出状況



図版2（下） 錦織神社境内遺跡 天神社西側（上層）瓦出土状況



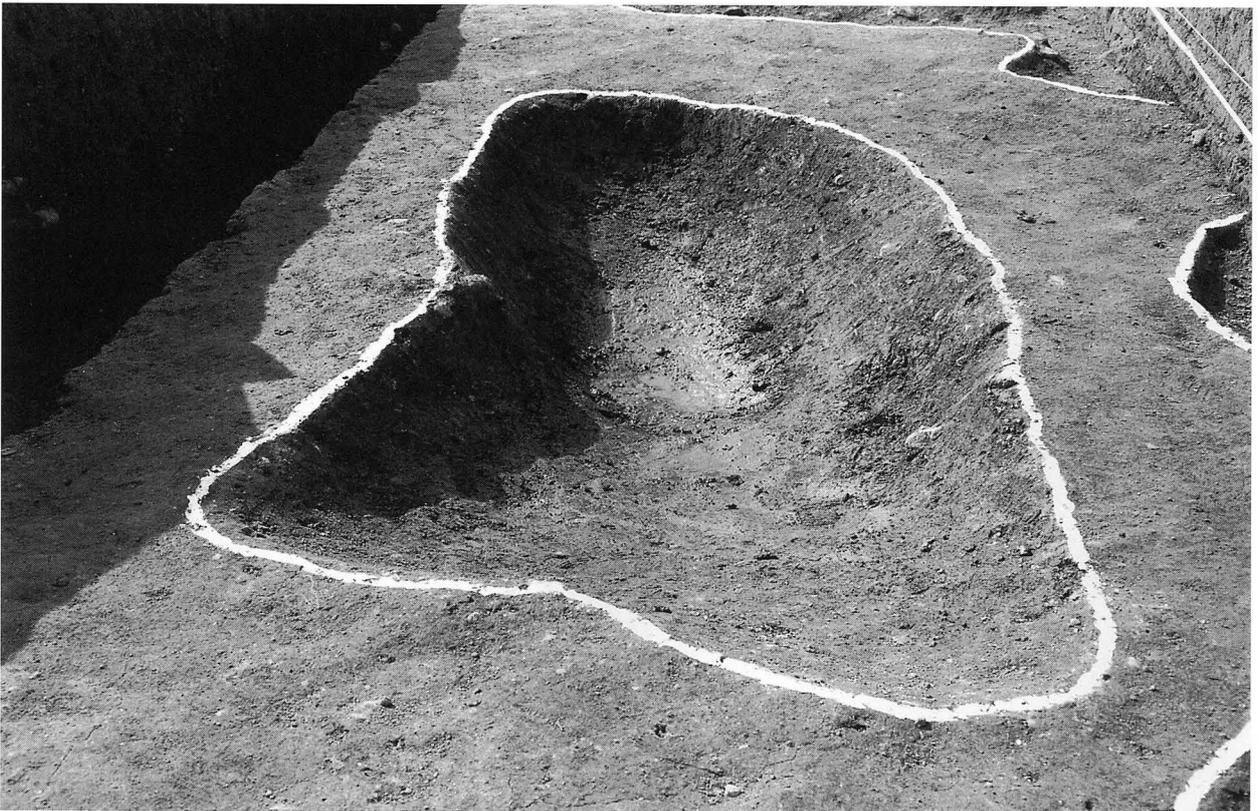
図版 3 (上) 錦織神社境内遺跡 天神社内トレンチ完掘状況



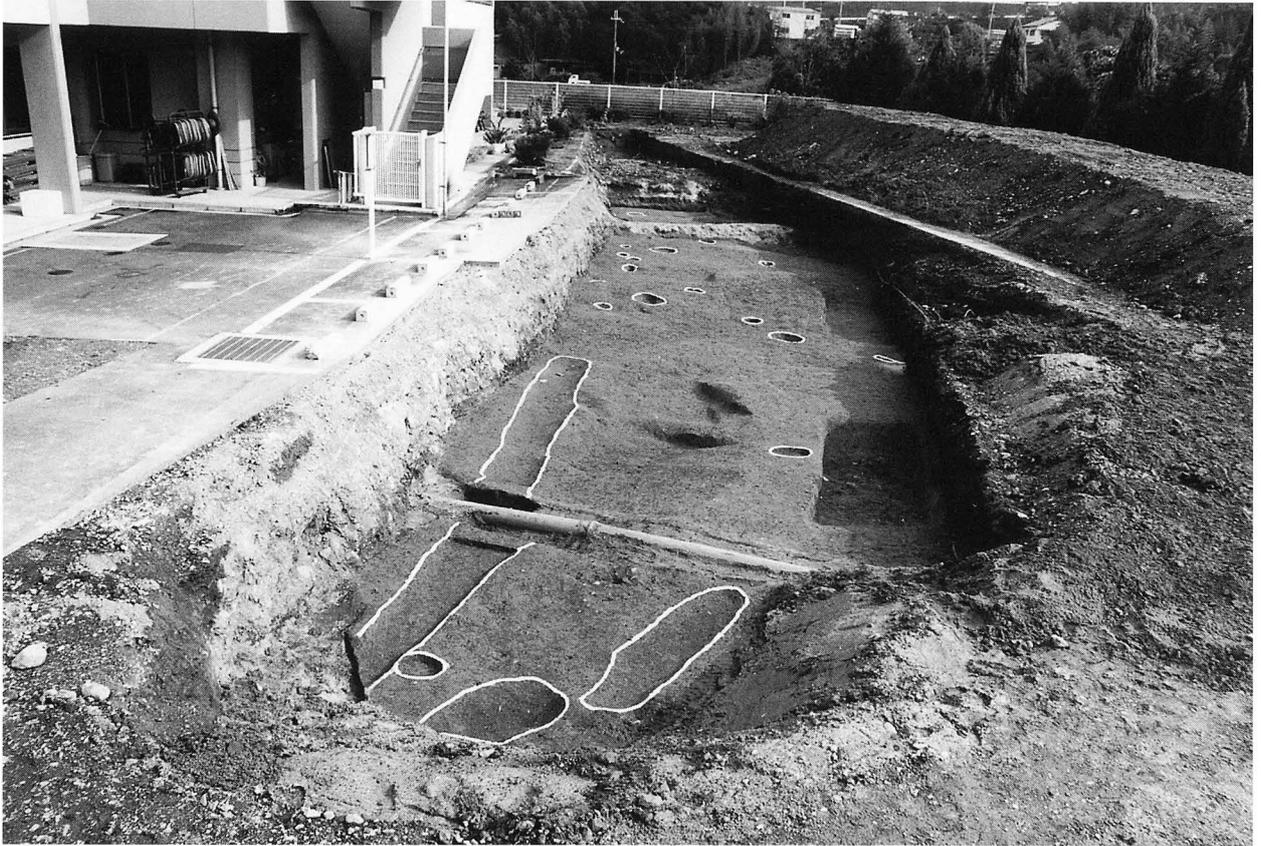
図版 3 (下) 錦織神社境内遺跡 天神社付近礎石検出状況



図版 4 (上) 喜志遺跡全景 (南から)



図版 4 (下) 喜志遺跡 土壙2 (北から)



図版5 (上) 錦織南遺跡全景 (西から)



図版5 (下) 錦織南遺跡全景 (東から)

富田林市埋蔵文化財調査報告36

発行年月日 2004年3月31日

編集・発行 富田林市教育委員会

住 所 富田林市常盤町1番1号

印 刷 橋本印刷株式会社

